

サムシング・ワイルド (1986)

SOMETHING WILD

メディア 映画

ジャンル ロマン스 コメディ

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 113分

初公開日 1988/06/11

公開情報 WB

【解説】

この映画、公開時は“モンド”ムービーとして宣伝されたが、その根拠はいったい何だ。多少風変わりではあるが、それも時代の色を出しただけで、ごくオーソドックスな“巻き込まれ”型のロマンチック・コメディではないか。実際、デミという監督はその辺のツボを（限界はあるが）よく心得た人で、趣味に走ってるかに見せかけて、意外と折り目正しい映画を作る。この作品も、M・グリフィスが、似合いもしないのにルイズ・ブルックスばりの短髪で、ルルと名乗って主人公のチャールズ（J・ダニエルズ）に近づくあたりは奇天烈だけど、彼をペンシルヴァニアの故郷に連れ、夫と偽って母に紹介してからは、“モンド”な要素に頼るだけの腰の弱い作品ではないことがはっきりする。財布に妻子の写真を入れ持ち歩く、NYのエリート会社員チャールズの体制へのしがたい反抗は“ランチの無銭飲食”や“新聞の万引き”。それをルルに見つかって、彼女に引きずられての車の旅に出たチャールズ。途中、酒屋に寄った彼女は堂々と強盗を働くが、彼は全く気づかず、モーターでちょっとアブノーマルなSEXを体験、すっかり彼女の虜になって、ダサイスーツに着替えて、その実家を訪問する。黒いボブ・ヘアのカツラを取ったルルは、オードリーという名のごく平均的な東部娘だった。そこで彼女の夫として振る舞ったチャールズは次にハイスクールの同窓会に連れて行かれ、会社の同僚ラリーに会って大わらわ。その上、オードリーの夫だと言う、凶暴な前科者レイ（リオッタ）が彼らにつきまとい二人の仲を無理矢理裂こうとするのだが……。むしろ、アメリカの正統な価値観を否定も肯定もしない層の、幸福の追求を辛口に描く喜劇と言っているいい作品。音楽はJ・ケールとL・アンダーソン。主題歌はデヴィッド・バーン。同窓会のバンドとしてザ・フィリーズがすっとぼけた演奏を聞かせNY派ロック・ファンを唸らせる。

【クレジット】

監督	ジョナサン・デミ	Jonathan Demme
製作	ケネス・ウット	Kenneth Utt
	ジョナサン・デミ	Jonathan Demme
脚本	E・マックス・フライ	E. Max Frye
撮影	タク・フジモト	Tak Fujimoto
音楽	ジョン・ケイル	John Cale
	ローリー・アンダーソン	Laurie Anderson
出演	メラニー・グリフィス	Melanie Griffith
	ジェフ・ダニエルズ	Jeff Daniels
	レイ・リオッタ	Ray Liotta
	ジョン・セイルズ	John Sayles
	ジョン・ウォーターズ	John Waters
	マーガレット・コリン	Margaret Colin
	トレイシー・ウォルター	Tracey Walter

ダナ・プリュー

ジャック・ギルピン Jack Gilpin

ロバート・リッジリー Robert Ridgely